

# 1. Coinhiveの概要（Coinhive事件とは）

## ▶ Coinhiveとは

“Coinhive(コインハイブ)とは、サイトの運営者が、そのサイトの閲覧者に仮想通貨をマイニングさせ、収益を得ることのできるツール”

※マイニング(mining:採掘)...自分のデバイスの処理能力を提供し、成果をあげると仮想通貨による報酬が支払われる。

“Coinhive(コインハイブ)は、Webサイトに広告そのものが表示される従来の収益システムとは異なり、サイト運営者がサイト上に広告を表示することなく、そのサイトの閲覧者から直接的にリアルタイムで収益が得られる“

## ▶ Coinhive事件の一連の流れ

2017年9月あるウェブデザイナーの男性が自身のサイトにCoinhiveを設置。



2ヶ月後に別のエンジニアから「運用にはサイト閲覧者の同意が必要ではないか」と指摘され、その後Coinhiveをサイトから削除。



3ヶ月後の2019年2月に神奈川県警が男性の自宅を家宅搜索し、その後横浜地検が不正指令電磁的記録取得・保管の罪で略式起訴、横浜簡裁が罰金10万円の略式命令を出した。これに対し男性側が不服として正式裁判を請求した。

## 2. Coinhiveの賛成論、反対論

### ▶ <賛成> 広告を入れる必要がなくなる

- ・ “ 「多くのWebサイトには、押しつけがましくて邪魔な広告が表示されている。その代替手段を提供することが、われわれのゴールだ」 ”

### ▶ <反対> マルウェアの一種だという声

- ・ "マルウェアとは、コンピュータの正常な利用を妨げたり、利用者やコンピュータに害を成す不正な動作を行うソフトウェア
- ・ Coinhiveの設置は、サイト閲覧者などのCPUを許可なく使うことになる  
→悪用されるとマルウェアになりかねない
- ・ “悪意あるサイトやChrome拡張機能などにCoinhiveが仕込まれ、マルウェア開発者の収益源になっている”

### ▶ Coinhive事件の裁判では..

地裁では無罪、東京高裁では(逆転)有罪！

### 3. まとめ

- ▶ 裁判ではCoinhiveがウイルスに分類されるかどうかを判断するにあたって、サイト閲覧者の意図に反してプログラムが実行されたかという「反意図性」、Coinhiveのプログラムによる指令が不正に当たるのかという「不正性」の二点が争点となった。

- ・ 過去の事例がないため(法律も不十分)、判決は難しい
- ・ その人の人間性や倫理観での判断になってしまう可能性

#### ▶ 情報リテラシーの必要性

情報分野は技術が発展している一方、法律の整備が追いついていない

→利用者側が情報リテラシーを身につける必要がある

#### ※参考文献

- ・ CryptoTimes「CoinHive事件とは？経緯や問題点、裁判における主張などを徹底解説！」  
(<https://crypto-times.jp/whatiscoinhive/>)
- ・ IT用語辞典e-words「マルウェア」(<http://e-words.jp/w/マルウェア.html>)
- ・ ITmediaNEWS「話題の「Coinhive」とは？ 仮想通貨の新たな可能性か、迷惑なマルウェアか」  
(<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/1710/11/news084.html>)
- ・ ITmediaNEWS「Coinhive裁判、逆転有罪の根拠は？ なぜ無罪判決は覆ったのか」  
(<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2002/10/news130.html>)